

TTC標準
Standard

JF-IETF-RFC2475

DiffServ 実現のための
アーキテクチャ

(An Architecture for Differentiated
Services)

第 1.0 版

2009 年 5 月 27 日制定

社団法人

情報通信技術委員会

THE TELECOMMUNICATION TECHNOLOGY COMMITTEE



本書は、（社）情報通信技術委員会が著作権を保有しています。
内容の一部又は全部を（社）情報通信技術委員会の許諾を得ることなく複製、転載、改変、転用及びネットワーク上での送信、配布を行うことを禁止します。

目次

<参考>	4
1. 標準の概要	5
2. 本標準で規定する内容	5

<参考>

1. 国際勧告等との関係

本標準は、IETFにおいて制定されたRFC2475に準拠している。

2. 上記国際勧告等に対する追加項目等

2.1. オプション選択項目

特になし

2.2. ナショナルマター項目

特になし

2.3. 原標準に対する変更項目

特になし

3. 改版の履歴

版数	制定日	改版内容
第 1.0 版	2009 年 5 月 27 日	制定

4. 工業所有権

TTCの「工業所有権等の実施の権利に係る確認書」の提出状況は、TTCホームページで公開されている。

5. その他

(1) 参照する主な勧告、標準

IETF RFC: RFC2402, RFC2474, RFC2406, RFC2460, RFC791, RFC1349, RFC1633, RFC1812,
RFC2205

(2) 本出版は、具体的な規定内容を含んでいない。規定はすべて準拠元であるIETF RFCによっている。

具体的な規定内容はRFCを参照する必要がある。

6. 標準作成部門

信号制御専門委員会

1. 標準の概要

本標準は、インターネット上でスケーラブルなサービスの差別化メカニズム (Differentiated Services) を実現するためのアーキテクチャについて記載する。このアーキテクチャでは、IP レイヤでパケットの DS フィールドを用いてトラヒッククラスを載せることで、スケーラビリティを実現する。パケットは DS フィールドによって識別され、ネットワーク中の転送経路にある各ノードにおいて、それぞれのトラヒッククラスに対応して次のノードまでの転送動作が行われる。ネットワークのリソースは、それぞれのトラヒッククラスを用いるサービスに対応じてプロビジョニングされて、確保される。

2. 本標準で規定する内容

本標準で規定する内容は下記の IETF RFC による。

IETF RFC2475 : 「An Architecture for Differentiated Services」